

イギリス・ウクライナ視察のご報告

■視察期間

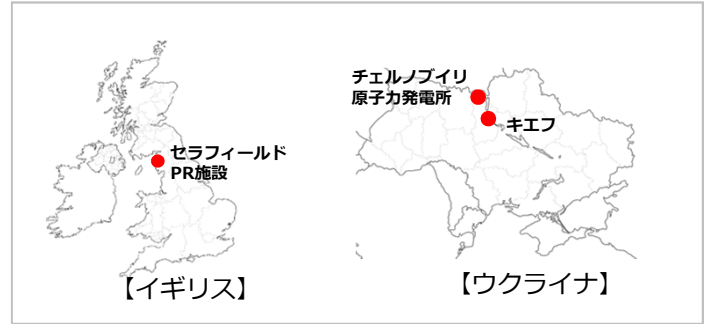
2016年10月30日（日）～11月6日（日）

■視察場所

イギリス（セラフィールドPR施設他）
ウクライナ（チェルノブイリ原子力発電所他）

■視察概要

- ・ 1957年、世界で初めての原子力重大事故が起きた地、イギリスの原子力施設・セラフィールドのPR施設と、1986年、原子力事故が起きたウクライナのチェルノブイリ原子力発電所他を訪問
- ・ 今回、各地の現状や、地域住民と事業者の取り組みを学ぶとともに、周辺住民の方々からも直接お話を伺う機会を得ました。今回の経験を今後の当社の活動に生かし、福島復興に向け全力で取り組んでまいります。



イギリス視察

■ウエスト・カンブリア・サイト・ステークホルダー・グループ (WCSSG : West Cumbria Site Stakeholder Group) 本会議に出席

- ・ WCSSGとは、地域が主体となり、自らの将来を事業者と一緒に協議する会議体。事業者からの説明に対し、WCSSGのメンバーや一般参加者からの質疑に対応するスタイル
- ・ 会議では、住民の皆さんが率直な意見・質問を投げかける中、事業者の経営層らが真摯に自分の言葉で答えている姿がとても印象的でした。
- ・ セラフィールド社・CEOからの言葉：
「住民の皆さんとの関係は、過去、良好といえる状況ではなかった。我々は事故を起こしてから60年間、住民の皆さんと真摯に向き合ってきました。包み隠さずなんでも情報開示しながら、正直に語り合いながらやってきました。そういう60年間があって住民の皆さんとの信頼関係を築くことができています。」



■ WCSSG本会議の様子

■セラフィールド社との交流プログラムに参加

- ・ セラフィールド社と当社の交流プログラムの一環として、地域の方々から、「日本人をほとんど見たことがないウエストカンブリア地域の子供達へ授業をして欲しい」とのご要請をいただきました。
- ・ 地元空手クラブ主催の「スペシャルイベントデー」を開催いただき、合気道の授業を通じて、地域の親子等と交流させていただきました。



■ 地元空手クラブの皆さんと

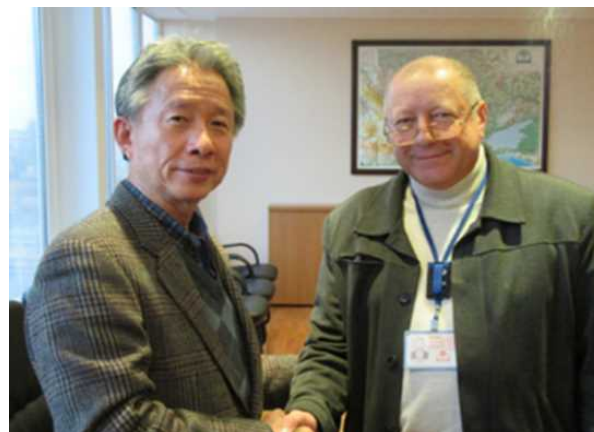
ウクライナ視察

■ チェルノブイリ原子力発電所視察

- ・ 現在、所内プラントは全て停止しており、使用済燃料が安全に管理されている状況
- ・ 1986年の事故時対応を除いて、**発電所従業員の基準レベル以上の被ばくはなく**、現在も継続
- ・ 現在は、**新シェルターの設置（2016年11月14日新シェルターの移動開始）**や**1～3号機の使用済燃料の取り出し**に注力
- ・ エヴゲニー・カトゥーニン副所長からの激励の言葉：
「私たちは常日頃から皆さんの活動を注視しています。みなさんの仕事は、日本のためのみならず、世界にとって重要な仕事で感動しています。皆さんのご成功とご健康、そして、今ある困難を克服されることを期待しています」



■ チェルノブイリ原子力発電所の現状説明



■ エヴゲニー・カトゥーニン副所長と



■ チェルノブイリ原子力発電所の事故を起こした4号機（左）と新シェルター（右）

■ キエフ市に避難した方々（NGOゼムリヤキ）との意見交換

- ・ 事故当時チェルノブイリ原子力発電所で勤務されていた方等のキエフ市に避難された方々の組織、NGO「ゼムリヤキ」の皆さまと意見交換し、貴重なご示唆をいただきました。
- ・ NGOゼムリヤキの皆さまからのご示唆：
「次に間違いを起こすことがないように、**記録・展示・発信し、引き継ぐことが大切**」



■ NGOゼムリヤキの皆さまとの意見交換